

名誉市民・高橋節郎さん逝く

いつの日も故郷を想い

安

曇野市の名誉市民で漆芸家の高橋節郎さんが4月19日朝、入院先の東京女子医科大学病院Ⅱ東京都新宿区Ⅱでお亡くなりになりました。享年92歳でした。

高

橋さんは、1914年北穂高生まれ、東京美術学校（現東京芸術大学美術部）在学中に漆と出会い、優れた時代感覚と自由な発想により、芸術性豊かな独自の漆芸術の世界を創り出しました。

ま

その功績は97年に文化勲章を受章するなど高く評価され、芸術史に大きな足跡を残しました。また、高橋さんは、故郷である安曇野をこよなく愛した人でもあります。

生前、「故郷を離れる年月が長くなればなるほど、故郷への思いはどんどん強くなる」と語っていた高橋さんは、故郷で培ったイメージや創造力を作品制作の核としていました。

小さいころ、家の庭から冬の星空を眺めると、星々が星座のように像を結び、動物や人間、妖怪の形に見えたという思い出や、北アルプスのふもと小さい塚や古墳で遊んだとき、土器の破片などを掘り出しては、いつか古代都市が発見できるといにしえに思いをはせたことなど、幼少時代に故郷の自然にはぐくまれた世界が高橋さんの作品に結実しています。

2

003年には、生家の地に安曇野高橋節郎記念美術館が開館しました。自らの芸術の原点である故郷にその美の殿堂たる

あいから心安らぐ時間を過ごしていました。花の季節、紅葉の季節、折々に故郷を思い、亡くなる直前まで帰郷を熱望していたそうです。

告

別式は4月26日、護国寺桂昌殿Ⅱ東京都文京区Ⅱで行われ、平林市長が参列し弔辞を捧げました。市長は弔辞の最後に、高橋さんの詩「穂高の四季」を朗読しました。

「故郷は永久に美しく、いつの日も故郷を想い 故郷を愛でそしていつの日か人はそれぞれに 故郷に回帰するであろう」満天の星空へと昇り故郷へ帰って来た高橋さん。その芸術世界は永遠に故郷を照らし続けます。

高橋節郎年譜

1914 長野県南安曇郡北穂高村に生まれる。



安曇野の自然、そこで養われた芸術への志向が作品制作の核となった。

1932 松本中学校を卒業。

1940 東京美術学校研究科を修了。
紀元2600年奉祝展に「ひなげしの図小屏風」を出品、入選。以後、文展・日展に出品、受賞を繰り返す。

1962 第1回日本現代工芸美術展に初出品。

1965 第21回日本芸術院賞を受賞。

1976 東京芸術大学美術部教授に就任。

1978 現代工芸美術家協会理事長に就任。

1981 日本芸術院会員に推挙される。

1982 日展常務理事に就任。
穂高町名誉町民になる。

1990 文化功労者に顕彰される。

1995 東京芸術大学名誉教授となる。
豊田市美術館高橋節郎館開館。

1997 文化勲章を受章。

2003 安曇野高橋節郎記念美術館開館。

2005 安曇野市名誉市民となる。

2007 東京にて逝去。

2003年のオープン以来、6万4000人が美術館に来館。芸術家としての魂が確実に故郷に息づいている。



「星空円舞」 漆屏風
1991年制作

美術館ができたことを大変喜び、高橋さんは何度も足を運んでいます。

近年では、美術館に来た小学生と満開の桜の下で憩いのひとときを過ごしたり、ギャラリィで行われた地元住民の作品展を鑑賞するなど、利用者とのふれ

美術館に設置された記帳台。
市民らが次々と訪れ、冥福を祈りました。